

【死亡診断書（死体検案書）】を記入する際は、必要に応じて不要な方を二重線で消します。

死亡診断書（死体検案書）

この死亡診断書は、我が国の死因統計作成の資料としても用いられます。かい書で、できるだけ詳しく書いてください。

氏名		1 男 2 女	生年月日	明治 昭和 大正 平成	年 月 日		
				〔 生まれてから30日以内に死亡したと きは生まれた時刻も書いてください 〕		午前・午後 時 分	
死亡したとき		平成 年 月 日		午前・午後 時 分			
死亡したところ及びその種別	死亡したところの種別		1 病院 2 診療所 3 老人保険施設 4 助産所 5 老人ホーム 6 自宅 7 その他				
	死亡したところ		番 地 番 号				
	(死亡したところの種別1-5) 施 設 の 名 称						
死亡の要因 ◇Ⅰ欄、Ⅱ欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください ◇Ⅰ欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください ◇Ⅰ欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください	Ⅰ	(ア) 直接死因		発病（発症）又は受傷から死亡までの期間 ◇年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3ヵ月、5時間20分)			
		(イ) (ア) の原因					
		(ウ) (イ) の原因					
		(エ) (ウ) の原因					
	Ⅱ	直接には死因に関係しないがⅠ欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等					
手術	1 無 2 有	部位及び主要所見		手術年月日		平成 昭和 年 月 日	
解剖	1 無 2 有	主要所見					
死因の種類		1 病死及び自然死 外因死 不慮の外因死 { 2 交通事故 3 転倒・転落 4 溺死 5 煙、火災及び火焰による損傷 } 6 窒息 7 中毒 8 その他 その他及び不詳の外因死 9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因 12 不詳の死					
外 因 死 の 追 加 事 項 ◇伝聞又は推定情報の場合でも書いてください	障害が発生したとき		平成 昭和 年 月 日 前・午後 時 分頃（推定）			したところ 障害が発生	都道府県 市 区 郡 町村
	障害が発生したところの種別		1 住居 2 工事及び建設現場 3 道路 4 その他（ 病院 ）				
	手段及び状況						
生後1年未満で病死した場合の追加の追加事項	出生時体重 グラム		単胎・多胎の別 1 単胎児 2 多胎（ 子中第 子 ）		妊娠週間 満 通		
	妊娠・分娩時における母体の病歴又は症状 1 無 2 有 { } 3 不詳		母の生年月日 昭和 平成		前回までの妊娠の結果 出生児 人 死産児 胎 (妊娠満22週以降に限る)		
その他特に付言すべきことがら							
上記の通り診断する				診断年月日 平成 年 月 日 本診断書発行年月日 平成 年 月 日			
{ 病院、診療所若しくは老人 保険施設等の名称及び所在 地又は医師の住所 }							
(氏名)		医師		印			